本日のワークショップのご案内

市民一人ひとりの「人権」を守るために、私たちの対応を振り返ってみよう

お互いの人権を認め合い、尊重し合う"あま市"をつくるための職員ワークショップ

7月27日（月）　14:00 ～ 16:00（120分）｜あま市 職員研修

1 なぜこのワークショップを行うの？

―ねらい―

人権とは

すべての人が生まれながらに持っている
「安心して自分らしく幸せに生きる権利」

あま市では、子ども・高齢者・障害のある人・外国人など、あらゆる人の人権が尊重されるまちを目指しています。

私たち市役所の職員は、市民の皆さんの「人権を守り、支える立場」にあります。

気づかぬうちに、こんな場面が

行政の慣習　言葉選び　無意識の思い込み

によって、市民が人権上のやりづらさや気まずさを感じてしまう場面が隠れているかもしれません。

今日は...

10の分野の人権問題を整理しながら、「市民の視点に立ったとき、どんな配慮があればもっと人権が守られるか」を職員同士で語り合い、日頃の業務をより良くするための視点を持ち帰る機会とします。

開催：令和８年７月27日　14：00～１６：００

2 今日のゴール

— 目指す姿 —



01

知る・理解を深める

10の分野の人権課題を知り、当事者が受けている差別や不利益（人権侵害）について理解を深める。



02

気づく

市役所の日常業務や窓口の中に潜む、「見落とされがちな人権配慮のポイント」に気づく。



03

行動につなげる

市民一人ひとりの尊厳と人権を尊重した、明日からの親身な対応につなげる。

3 当日の進みかた

120分間のタイムライン



14:00-14:15	14:15-14:55	14:55-15:35	15:35-15:55	15:55-16:00
15分	40分	40分	20分	5分
1	2	3	4	5
はじめに	**話し合い① 人権課題の見つけ出し**	**話し合い② 人権配慮の視点チェック**	**発表と共有**	**おわりに**
ワークショップの目的や、あま市の人権施策と職員の役割について説明	10の分野が書かれた模造紙を囲み、当事者が受けている差別や偏見、生きづらさなどの「人権課題」を付箋に書いて貼り出す	「もし自分が当事者なら、窓口や手続きのどんな『壁』を感じるか」「もっと配慮できる点はないか」をグループで話し合う	各グループで気づいた「なるほど！」や「明日から意識したい工夫」を全体で共有	全体のまとめ、アンケートの記入



【A グループ】

01 女性

- 収入格差
- ワンオペ
- 夫から DV を受け市役所に避難。その後、生活保護を申請してシェルター入所。
- 男性と話すなかでセクハラと受けとれる内容を言われる

02 子ども

- 教育格差
- ヤングケアラー
- 小中学生が、SNS で特定の人の悪口を書いたり仲間はずれにしたりしている。
- ひとつ親

03 高齢者

- 年金生活による貧困
- 介護問題
- 振り込め詐欺の電話がかかってくる。
- 認知症患者が認知症患者と判断できない

04 障がいのある人

- 車イスの利用者が公共交通機関の利用がしにくい

05 部落差別(同和問題)

- 特定の保育園に対して、抵抗を持っている市民がいた。

06 外国人

- 外国人向けの表記がない。

07 インターネット

- SNS で悪口を書きこむ
- 職員が YouTube にあげられる

08 ハンセン病・感染症患者等

- コロナ感染していないのに、来るなと言われた。
- 教育・知識不足

09 性的マイノリティ

- 性別と容姿の相違
- 制服

10 様々な人権問題

- 男性視点での避難所資材(少しは女性用有)

女性へのセクハラや、SNS 上での仲間外れや悪口といったインターネット上の不当な扱いについて意見が出されました。また、判断力が低下した高齢者を狙う振り込み詐欺、障害者が市内の公共交通機関を利用しにくい現状、特定の保育園に対する偏見といった地域課題も共有されました。さらに、外国人向けの案内不足やコロナ禍における感染症患者への不当な拒絶反応、性的マイノリティの見た目と記載性別の違いによる生きづらさなど、多岐にわたる人権問題についての配慮不足が指摘されました。

【B グループ】

01 女性

- 性被害
- 職業の役職が上がりにくい
- 女性軽視
- セクハラ
- DV

02 子ども

- 居場所がない
- ひとり親
- いじめ
- ヤングケアラー
- ネグレクト

03 高齢者

- 孤独死
- 年金生活

- ネグレクト
- 虐待
- 老々介護

04 障がいのある人

- 閉じこもり
- 介護問題
- 偏見
- 就労困難
- ヘルプマーク

05 部落差別(同和問題)

- うわさによる誤情報
- 正しい教育がされてない
- 地名リスト
- ネットによる間違った情報
- 結婚の拒否

06 外国人

- 不法滞在者の増加
- 宗教
- 価値観の違い
- 言語の壁
- 文化の違い

07 インターネット

- AI
- 自殺きょうぼう
- 暴言
- 誤情報
- リベンジポルノ

08 ハンセン病・感染症患者等

- 教育不足
- 日常生活からのかくり
- 誤った知識
- 施設生活
- 情報不足

09 性的マイノリティ

- 制服
- トイレ
- 公衆浴場
- 見た目で判断

- LGBT
- 悪用

10 様々な人権問題

- 許可を得ない撮影(YouTube 等)
- 被災時の避難所
- アイヌ
- パワハラ
- スマイリーキクチ

女性のキャリア形成の難しさや DV・セクハラ問題をはじめ、子どものネグレクトやヤングケアラー、高齢者の孤立や貧困など、幅広い世代が抱える深刻な不当状態が議論されました。また、障害者の社会的な閉じこもりや就労の難しさ、噂や間違った情報による部落差別の助長、外国人における言語や文化の壁など、構造的な問題も挙げられました。さらに、ネット上の暴言や AI 技術の悪用、感染症や性的マイノリティへの理解不足、被災地の避難所でのプライバシー侵害など、現代社会ならではの人権課題についても多角的に捉えられました。

【C グループ】

01 女性

- ワンオペ
- シングルマザー
- 男性よりも低い収入
- 気兼ねなく DV 等の被害を吐露できる場所の確保
- 管理職の人数

02 子ども

- 保護者の虐待に対する意識
- いじめ問題
- 貧富の差などの様々な家庭環境の違い

03 高齢者

- 交通手段
- 独居老人の増加(高齢化) ※判読やや不確か
- 判断能力の乏しい高齢者の権利擁護

04 障がいのある人

- バリアフリー化への対応
- 申請の難しさ
- 判断能力の乏しい障がい者の権利擁護

05 部落差別(同和問題)

- 根強い偏見

- うわさ
- 思い込み
- 「あの地域は」という表現が聞こえてくる現状がある

06 外国人

- 根強く残る恐怖というイメージ
- 地域のルール

07 インターネット

- 誤った正義感 ※判読やや不確か
- 個人への誹謗中傷
- 個人情報・プライバシー侵害
- SNS の書き込み

08 ハンセン病・感染症患者等

- 無知
- コロナ時の感染症対策の意識の差

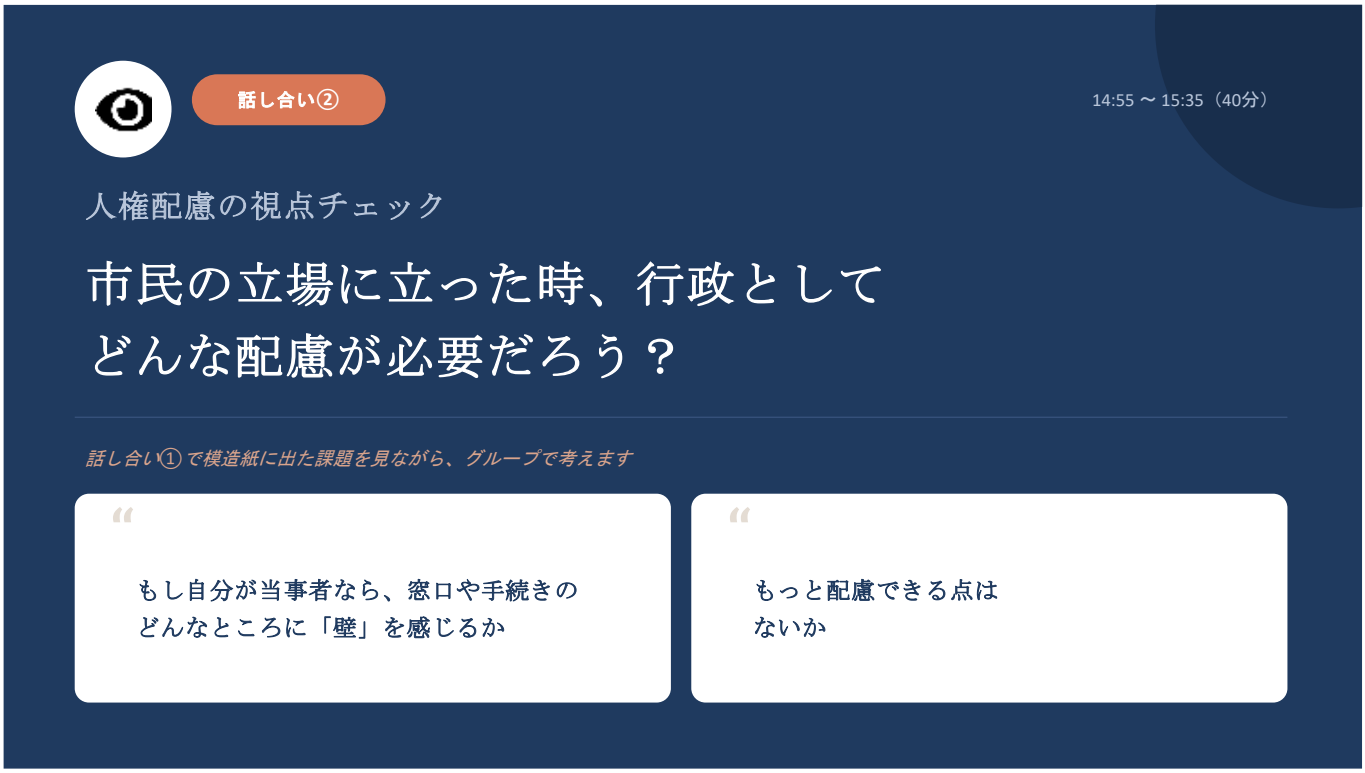
09 性的マイノリティ

- 性別欄の表記
- 見た目での判断の難しさ

10 様々な人権問題

- 付箋なし

家事負担の偏りによる女性の収入差や、公的機関における意思決定層の偏りが政策に影響を与える懸念について意見が交わされました。また、家庭環境の違いが将来にわたって影響を及ぼす問題や、一人暮らしの高齢者が抱える交通手段の確保および権利擁護の必要性についても触れられました。さらに、障害のある方にとって各種申請手続きが非常に複雑であることや、根強い地域の偏見、外国人に対するルールの共有不足など、制度やコミュニケーションの面における具体的な課題が整理されました。



【A グループ】

01 女性

- 男性の育休あっせん
- 研修を通して知識を増やす

02 子ども

- 町内会の勧誘促進

03 高齢者

- 町内会の勧誘促進

04 障がいのある人

- 障がいのある人の目線に立った施設づくり

05 部落差別(同和問題)

- 研修を通して正しい知識を身につける

06 外国人

- 色々な言語での案内を増やす

07 インターネット

- 広報や HP で周知の徹底

08 ハンセン病・感染症患者等

- 研修を通じて正しい知識を身につける

09 性的マイノリティ

- 研修を行い知識を身に付ける

10 様々な人権問題

- 女性職員の配置

女性の収入格差解消に向けた男性育休の取得促進や、災害時を見据えた女性職員の配置など、具体的な配慮策が提案されました。また、ヤングケアラーや詐欺被害を防ぐために町内会を通じた地域全体での見守り体制を整えることや、障害者の視点に立った施設設計の重要性が示されました。さらに、職員研修による正しい知識の習得を基本としつつ、多言語案内や広報を通じたメディアリテラシーの周知など、市としての情報発信や啓発の徹底が求められています。

【B グループ】

01 女性

- 相談しやすい環境の整備

02 子ども

- 学校・保育園等との密な連携・見守り
- カウンセラーの積極的な活用

03 高齢者

- 地域住民の積極的な参加(通報等)

04 障がいのある人

- バリアフリーの整備

05 部落差別(同和問題)

- 教育の徹底(研修会開催等)

06 外国人

- 翻訳機を設置

07 インターネット

- 誤情報の削除要請

08 ハンセン病・感染症患者等

- 教育の徹底(研修会の開催等)

09 性的マイノリティ

- 選択肢の拡充(多様性の対応)

10 様々な人権問題

- 教育の徹底(研修会等の開催)

相談しやすい環境の整備をはじめ、学校や保育園と連携した見守りや各種カウンセラーの積極活用など、早期発見に向けた具体的な対応策が議論されました。また、バリアフリー化や翻訳機の設置による窓口対応の強化、性的マイノリティに配慮した多目的施設の拡充など、誰もが利用しやすい環境づくりが挙げられました。さらに、誤った情報への削除要請や研修会の開催を通じて、人権問題全般に対する正しい理解と徹底した教育の重要性が強調さ

れました。

【C グループ】

01 女性

- 育休・産休
- 年休のとりやすさ

02 子ども

- こどもの虐待防止のひとつに教職員や保育園職員の意識向上の啓発活動
- 保育現場の充実・教育環境

03 高齢者

- 高齢者の働ける場・活やくの場
- 郵便物・配達物の届時における声かけの実施

04 障がいのある人

- 幅広く手続きする方法を選択できるよう電子申請を積極的に活用する

05 部落差別(同和問題)

- 学校・イベントなどでの正しい理解に向けた取組

06 外国人

- 多言語での案内の作成
- 外国人でもわかりやすい市 HP の作成

07 インターネット

- セキュリティに対する職員意識
- 市として正しい情報発信

08 ハンセン病・感染症患者等

- 正しい理解の啓発

09 性的マイノリティ

- 学校で教育
- 選択できる社会

10 様々な人権問題

- 付箋なし

産休・育休の取りやすさ向上や、高齢者が能力を発揮できる就労・活躍の場の提供など、社会参画を支える配慮策が提示されました。また、電子申請の活用による手続きの利便性向上や、SNS を活用した柔軟な相談体制の構築など、行政サービスのデジタル化に伴う支援体制が提案されました。さらに、各種イベントや学校教育を通じた啓発活動をはじめ、職員のセキュリティ意識向上や正確な情報発信を進めることで、多様な人権問題への理解を深めていく必要性がまとめられました。

【全体総括 / ファシリテーター・事務局】

各グループの発表を通じて、人権課題の解決には学校教育のみならず、市役所や民間事業者、家庭など多様な場面での継続的な「教育の徹底」と、当事者が安心して助けを求められる「相談しやすい環境づくり」が不可欠であるとまとめられました。また、過去の痛ましい人権侵害事件の記憶が風化しつつある現状を踏まえ、正しい理解や新しい課題への配慮を風化させずに伝えていく行政の役割が再確認されました。これらワークショップで出された貴重な意見は、今後の行動計画へ反映させるとともに、各職員の日常業務や事業見直しにおいても実践していくことが共有され、閉会となりました。

